

白山水系エリアの地域活性化 ～デザインラボラトリー白山と協働での開発～

団体名● D-Lab. HAKUSAN / 代表者名● 呉 星辰（経済学部経営学科・講師）

はじめに

本団体では、白山水系エリアの地域活性化を推進するデザイン&研究のグループである「デザインラボラトリー白山」と協働で、地域の特徴や伝統工芸品をベースとした新たな商品のデザイン開発を行っている。デザインの力や研究で開発された手法により、資源や文化を活かしながら、地域の魅力を引き出す商品開発とエシカルで持続可能な消費の促進を目指している。

活動内容

本年度は、伝統工芸牛首紬を活用したエシカルな新商品の開発企画をスタートした。全国的にも呉服市場は、1980年代をピークとして、現在はそのおよそ6分の1にまで縮小している。「着物離れ」に加えて、近年ではコロナ禍による生活の変化により、さらに苦境にたたされている。牛首紬は現在、国指定伝統的工芸品であり、昭和初期までの生産は拡大の一途でしたが、経済不況と戦争により本格的な紬生産は一度姿を消したという過去があり、今後、産地の存続のために危機感を持って、早急に普及活動を活発化させる必要があると考えられる。

令和5年に白山手取川ジオパークがユネスコ世界ジオパークに認定されたが、「ユネスコ世界ジオパーク」は、国際的に価値のある地質遺産を保護し、そうした地質遺産がもたらした自然環境や地域の文化への理解を深め、科学研究や教育、地域振興等に活用することにより、自然と人間との共生及び持続可能な開発を実現することを目的とした事業である。牛首紬は白山の自然環境の中で山村特有の暮らしを営んだ人々が育んだ、自然と人間との共生を代表するともいえる伝統産業であり、再度の廃業という危機を避けるために、現代の時代に合った新しい商品開発の可能性を探っている。

本団体では4月からデザインラボラトリー白山のメンバーと開発方針についての話し合いを重ねてきた。また、2023年11月10日にANAクラウンプラザホテル金沢にて開催された「Matching

HUB Hokuriku2023」に参加した。「Matching HUB Kanazawa・Hokuriku」は、「北陸地域の活性化を目指した新産業創出と人材育成」をビジョンに掲げた北陸発の産学官金連携マッチングイベントである。そこで広くこの開発企画の趣旨をアピールした。

成果、結果の考察

デザインラボラトリー白山では、この伝統工芸牛首紬を活用したエシカルな新商品の開発を公益財団法人石川県産業創出支援機構 ISICO の地域資源活用新商品・新サービスに係る事前調査支援事業として申請し、審査の結果、採択された。本団体では引き続き調査事業の協力を続けていく。

今後の課題、展望

来年度は事前調査のみに注力することで、顧客ニーズをしっかりと調査し、それを反映させた製品にすることをグループの目標としている。また、SDGsの推進となる伝統工芸を利用したエシカルな商品という視点をより重視して進めていきたいと考えている。

